



プレス・リリース

2025年11月21日
タレンツ・トーキョー実行委員会

タレンツ・トーキョー2025 公開プログラム「オープン・デイ」の一般参加募集開始
参加者17名による「オープン・プレゼンテーション」を11月28日（金）に実施
「オープン・キャンパス」として
ラモン・チュルヒャー監督とモーリー・スリヤ監督を迎え
「映画を撮り続けるために — 創作の持続とその葛藤」をテーマにトークを実施



タレンツ・トーキョー実行委員会は、公開プログラム「オープン・デイ」を11月28日（金）に開催します。当日は、誰でもご参加いただける「オープン・プレゼンテーション」と「オープン・キャンパス」を実施します。

16回目となる「タレンツ・トーキョー2025」は、「心を開く、その強さ (Tough Enough to Stay Vulnerable)」をテーマに、11月24日（月・振休）から11月30日（日）まで、有楽町朝日スクエアにて開催します。

会期中は、アジア各国から選ばれた新進気鋭の映画監督およびプロデューサー17名（タレンツ）が参加し、プレゼンテーショントレーニングやグループディスカッションを通じて、長編映画企画について専門家からフィードバックを受けます。

11月28日（金）には、タレンツ自身の企画を発表する公開プログラム「オープン・プレゼンテーション」を実施。プレゼンテーションは、「タレンツ・トーキョー・アワード (Talents Tokyo Award)」の審査対象となり、授賞者を翌29日（土）の授賞式および閉会式で発表します。

また、同日午後には、「オープン・キャンパス」として「映画を撮り続けるために — 創作の持続とその葛藤 (Directors' View: Navigating Challenges and Sustaining Creativity in Filmmaking)」をテーマにトークを実施します。ゲスト講師には、ラモン・チュルヒャー監督およびモーリー・スリヤ監督をお迎えし、長期的かつ継続的に映画制作を続けていくための視点や経験を語っていただきます。モデレーターは、タレンツ・トーキョー実行委員長の市山尚三が務めます。

「オープン・デイ」の各プログラムは一般公開ですが、事前申込が必要です。詳細および申込方法については、下記のページをご参照ください。

監督たちの貴重な視点に触れる機会をぜひお楽しみください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

「タレンツ・トーキョー2025」
公開プログラム「オープン・デイ」実施概要

日程：2025年11月28日（金）

会場：有楽町朝日スクエアB

言語：英語【日本語同時通訳あり】

① オープン・プレゼンテーション (13:00 ～ 16:10)

17名の参加者（タレンツ）が、11月24日（月・振休）よりプレゼンテーション実習、グループ・ディスカッション、各種講義を重ねたトレーニングの成果発表として、公開型の最終プレゼンテーションに臨みます。

13:00-14:00 オープン・プレゼンテーション第1部

14:10-15:10 オープン・プレゼンテーション第2部

15:20-16:10 オープン・プレゼンテーション第3部

② オープン・キャンパス (16:40 ～ 17:40)

トークプログラム：「映画を撮り続けるために ― 創作の持続とその葛藤

(Directors' View:Navigating Challenges and Sustaining Creativity in Filmmaking)」

ゲスト講師：ラモン・チュルヒャー監督 (Ramon ZÜRCHER / スイス)

モーリー・スリヤ監督 (Mouly Surya / インドネシア)

日程：2025年11月29日（土）

会場：有楽町朝日スクエアB

言語：英語【日本語逐次通訳あり】

③ 授賞式、閉会式 (15:00 ～ 16:00)

前日の参加者による最終プレゼンテーションにて発表された企画のうち、優秀な企画1点を「タレンツ・トーキョー・アワード (Talents Tokyo Award)」として表彰します。

※各プログラムはどなたでもご覧いただけますが、入場には申込が必要です。

参加ご希望の方は、下記Googleフォームよりお申込ください。

申込締切：2025年11月27日（木）12:00（正午）まで

＜参加申込フォーム＞



<https://forms.gle/u9FaJM4nKEGwdgRv6>

お申込者が定員を超えた場合は、抽選により参加者を決定いたします。

あらかじめご了承ください。

※その他、講師やタレントへの個別取材や上記①～③以外のプログラムの撮影を希望される場合は、下記タレント・トーキョー実行委員会まで別途ご相談ください。

タレント・トーキョー（HP:開催概要）



<https://talents-tokyo.jp/program>

＜プレス・個別取材及び現地取材＞

タレント・トーキョー実行委員会・担当：松本 / Email：talents@talents-tokyo.jp

Talents Tokyo 2025 参加者



(昨年のオープン・プレゼンテーションの様子)

ディレクター:

CHEN Jianhang (中国)
GUAN Tian (中国)
Sean Ali WANG (中国)
ZHENG LU Xinyuan (中国)
Anastasia TSANG (香港)
Makbul Mubarak (インドネシア)
Rein Maychaelson (インドネシア)
Sushi KUWAYAMA (日本)
TAN Ce Ding (マレーシア)
Glenn BARIT (フィリピン)
Sam MANACSA (フィリピン)
Ash GOH Hua (シンガポール)
NGUYỄN Lương Hằng (ベトナム)

プロデューサー:

LUNG Kwok Yiu (香港)
SATOH Naomi (日本)
Jed MEDRANO (フィリピン)
Evril Pinyu KUO (台湾)

* タレンツ名は国名／地域名のアルファベット順で表示しています。

* 国名／地域名は出身国もしくは現在の活動拠点です。



オープン・キャンパス ゲスト講師



ラモン・チュルヒャー (Ramon ZÜRCHER・映画監督) 1982年スイス・ベルン州アーベルク生まれ。ベルン芸術アカデミーで視覚芸術の学位を取得、ベルリンのドイツ映画テレビアカデミー (DFFB) で映画演出を学ぶ。卒業制作の初長編『ストレンジ・リトル・キャット』(2013)はベルリン映画祭フォーラム部門に選出され、トロント、カンヌなどでも上映、ミンスク映画祭の新人作品審査員特別賞、ウィーン映画祭観客審査員賞などを受賞した。同作を製作した双子の兄弟のシルヴァン・チュルヒャーと製作会社チュルヒャー・フィルムを2017年に設立。シルヴァンとの共同監督・共同脚本の長編2作『ガール・アンド・スパイダー』(2021)は、ベルリンのエンカウンターズ部門で監督賞と国際批評家連盟賞を獲得。再び単独監督した第3作『煙突の中の雀』(2024)はロカルノ映画祭コンペ部門でワールドプレミアされ、中国・平遥映画祭外国映画コンペ部門の作品賞、スイス映画賞の作品賞、脚本賞などを受賞した。現在は動物三部作とは方向性の異なる新作を双子の兄弟シルヴァンとともに準備中。



モーリー・スリヤ (Mouly Surya・映画監督) 1980年ジャカルタ生まれ。インドネシアを代表する映画監督の一人であり、全米監督協会のメンバーでもある。長編デビュー作『FICTION』(2007)でインドネシアのシトラ賞最優秀監督賞を受賞し、翌年には釜山国際映画祭でも上映された。2013年の第二作『WHAT THEY DON' T TALK ABOUT WHEN THEY TALK ABOUT LOVE』は、サンダンス映画祭ワールドシネマ部門に正式出品。第三作『MARLINA THE MURDERER IN FOUR ACTS』(2017)はカンヌ国際映画祭・監督週間にてプレミア上映された。2023年には東京国際映画祭より黒澤明賞を受賞。初の北米作品となるNetflix映画『TRIGGER WARNING』(主演:ジェシカ・アルバ)は2024年に配信された。最新作『PERANG KOTA (THIS CITY IS A BATTLEFIELD)』(2025)は、ロッテルダム国際映画祭のクロージング作品としてプレミア上映が行われた。